

日本発ドイツ便り：音楽の吸引力

いつも旅行の計画するのが半年くらい前。ということは今回の行き先を決めたのが年末年始あたり。いくつか候補を挙げて…というとなんだか計画的に聞こえますが、まあ、思いつくのは勝手に分かっていて、何も考えないで良いところ。(要は良く知っている街)◎当初、久々に我が第二の故郷ケルンに里帰りのつもりでしたが、急きよ München になりました。

そうです。今回の München 旅行の目的は、実は湖でも修道院でもなく、Konzert (コンツェルト：音楽会)。

うっかり音楽会の予定を見てしまったのが運のつき。どうしても一度聞いてみたかった指揮者が振る音楽会が München であるじゃないですか！チケットが取れる前から、その音楽会に合わせた日程で飛行機やホテルを予約し、あとはチケットの前売り開始の日を待ちます。今はオンラインで買えるので本当に便利ですね。チケットは「命をかけて」なんとか確保。◎お席は聞けさえすれば、どこでも良いんです。

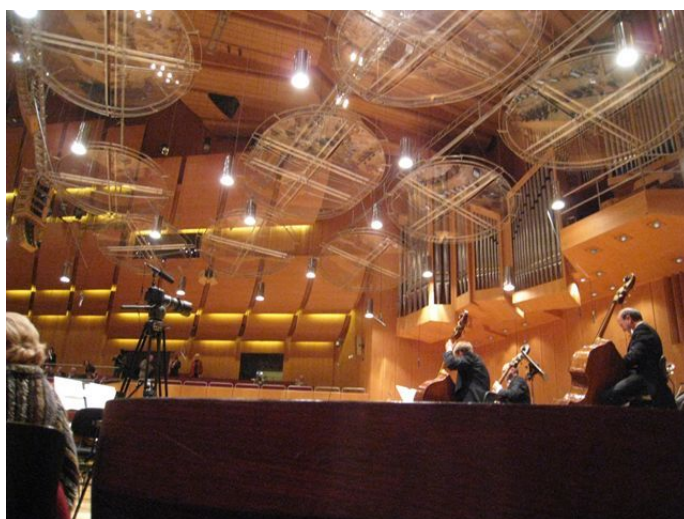
そして始まるのが、演奏予定の曲の予習。2011 年は、Mahler (マーラー) の年。亡くなって今年がちょうど 100 周年ということで、各地で Mahler の曲が演奏されています。全く知らないまま聞くのも楽しいですが、今回は、ちょっと気合を入れて CD を買って勉強。曲が頭に入っていれば、メロディーの隅々まで楽しむ余裕が出てきます。(ただ、指揮者による解釈の違いが必ずあるので、同じ演奏をあまり聞きこみすぎると、その演奏に引っ張られて、違いばかり探すことになってしまうので要注意です。)

コンサートは夜の 8 時から。チケットを持っていると、コンサートの前後の München 市内の公共交通機関は無料になります。なので、開演 30 分前くらいになると、ぞくぞくと電車やバスでドレスアップした人々が集まってきます。

München の Gasteig (ガスタイク)。Münchner Philharmoniker (ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団) と Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks (バイエルン放送交響楽団) の本拠地の音楽ホールがあります。ここで聞くのは、2 度目になります



中には大小様々のホールや図書館に音楽学校まであって、すごく広いです。



ホール内の様子。ここも私の好きなホールの一つです。今回は指揮者が良く見える位置だったので、指揮者のイメージする音楽が「見えて」すごく楽しかったです！です。ここのホール、天井から吊るされている反響板の影響かもしれませんが、音がすごく響くんです。なので、最初のうちは「響き過ぎ」なような気がして、違和感があるのですが、慣れてくると、ホール全体が共鳴しているように感じます。

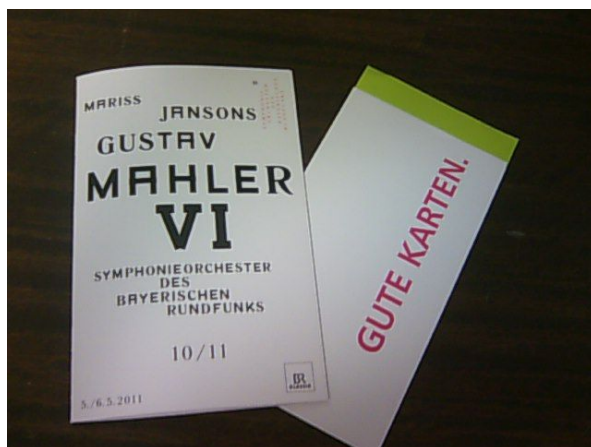
音楽、美術、食べ物などなど、人によって、いろんな「吸引力」というのがあると思いますが、私の場合はやっぱり「音楽」が一番でしょうか。同じ演目が3日連続であっても、その演奏は1回限りのもの。考え方を換えれば、「自分のために演奏してくれている！」んですよ。◎なんとも贅沢じゃないですか？なかなか言葉で説明するのは難しいのですが、CDでは「音」に聞こえますが、ライブで聴くと、どの楽器がどんな音を出しているか分かるし、音が生み出す空気の振動と緊張感が体に伝わってきます。やっぱり音楽は生で聴くべし。だと思えます。この日の演奏は、期待を裏切らず、どころか、期待以上！力強く優雅な素晴らしい演奏でした。もちろん演奏後は、ドイツ式（手の拍手+足踏み）の拍手大喝采でした。

この日のプログラム

Gustav Mahler: Symphonie Nr. 6 (グスタフ・マーラー:交響曲第6番)

Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks(バイエルン放送交響楽団)

Dirigent: Mariss Jansons(指揮者: マリス・ヤンソンス)



終演後、プログラムを見てもう一度余韻に浸るのもいいもんです。◎（プログラムは無料です。）